

# 新春 特集

# 私たちの好きなまちは 私たちでつくろう

皆さんは「市民協働」という言葉を知っていますか。ここ最近、よく耳にする人もいるかもしれません。

市では、平成18年度に各種団体の代表者や市民活動などを実践する人たちが構成する市民協働推進会議を設置し、「市民協働のための提言書」を受け「市民協働指針」を策定しました。

なぜ今、「市民協働」が必要なのか。「市民協働」の先にどうという鳥栖市の姿を描きたいのか。今号の特集を通して、みんなで考えてみませんか。

## ■表紙の写真

左上：「要約筆記ボランティアを知っていますか」子どももがんばります  
左下：本鳥栖町公民館では、子どもとお年寄りと共に触れ合う空間がある  
右上：点訳を多くの人に知ってもらおうと体験コーナーを実施  
右中：「おもちゃ図書館」の研修会でボランティアに木のおもちゃ作りを学ぶ  
右下：高田町・安楽寺町で行われている「どろんこ大会」では、地域のきずなと食べ物への感謝を再確認

## ■2ページの写真（上から順に）

1. 商工会議所の実行委員と市民ボランティアで作上げた「ハートライトフェスタ2009」のイルミネーション
2. 障害児の夏休み支援で、楽しく遊ぶ子どもたち
3. 「コスモス夢太鼓」もステージの上で大活躍
4. ぬくもりで人々を癒す「手のひらの会」
5. 勝尾城の見学会では「ふるさと元氣塾」のメンバーが活躍
6. 子育て中の親の心を優しく癒す「ファミリーコンサート」





# STEP 1

## 今の社会って どんな状態？

助け合いの意識は低下  
地域課題は増えている

今の社会について、よく「人間関係が薄れてきている」や「地域の力が弱くなってきている」という言葉が聞かれます。

戦後すぐの日本は、国も地方自治体も貧しく、そのような中、人々は何か困った問題が起きたときでも、地域で協力し合い、助け合いながら生活をしてきました。

その後、時代の流れが進むにつれ、日本人の生活スタイルは大きく変化しました。経済成長や産業の進展に伴い、私たちの家庭には電化製品をはじめ、さまざまな「モノ」が普及。物質面では非常に便利で豊かになりました。

しかし一方で、私たちの生活スタイルは多様になり、自分や家族

以外の周囲の人を気遣ったり、助け合ったりするという意識は薄れていきました。

そして今の時代は「人間関係の希薄化（＝個人主義）」を要因とした、防犯問題や青少年育成の問題、孤立化がもたらす孤独死など、さまざまな地域課題が増えているのが現状です。

「人間関係の希薄化」は  
他人事ではありません

「人間関係が薄れてきている」や「地域の力が弱くなってきている」という状態は、鳥栖市にとっても、他人事ではありません。

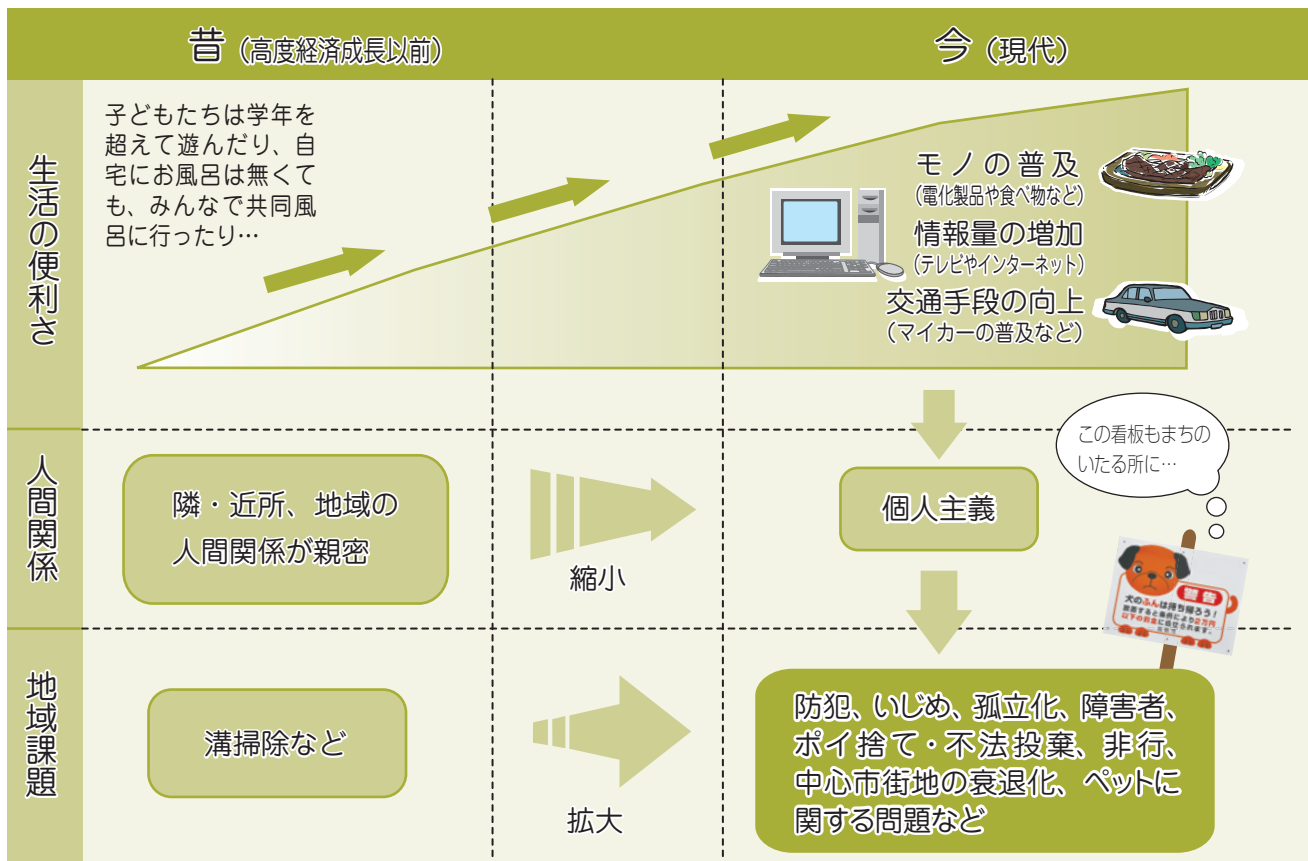
まず、市の特徴を考えてみましょう。鳥栖市は、鉄道の分岐駅や高速道路のジャンクションがあり、たくさん企業が集まる内陸工業・物流都市です。

また、人口は現在も増加傾向にあります。

しかし、企業が多く、交通の便がよいということは、一方で、人口の出入りが多く、地域に人がなかなか根付きにくいという状況も生み出しています。

実際に、近所の人の顔を知らないという人や、自治会や子ども会など、地域で運営されている組織に入らないという人も増えているようです。

生活が便利になるにつれて、地域課題も大きく複雑になりました。





## STEP 2

# 「市民協働」って どんなもの？

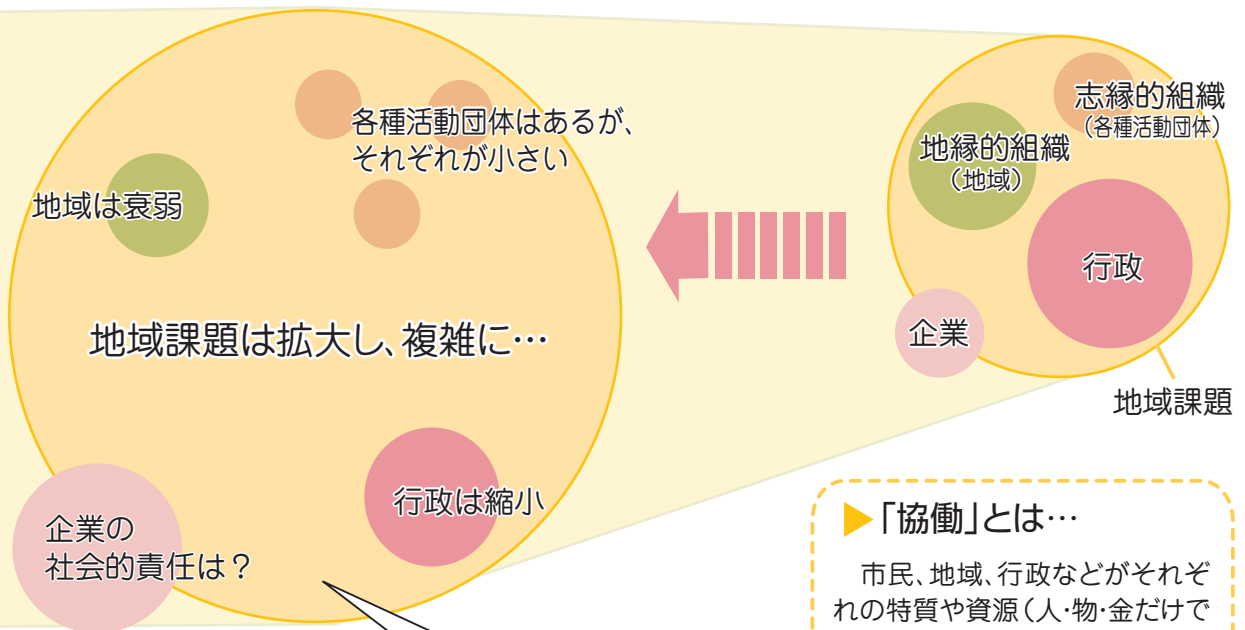
震災が私たちに  
気付かせてくれたこと

人間関係が薄れてきている。そんな社会状況の中、1995年1月に「阪神淡路大震災」が起こりました。戦後最大とも言われるこの災害には、多くのボランティアが現地に駆けつけ、援助活動や復興活動に取り組みました。震災直後のまちの様子やボランティアの活動の様子は、メディアを通して私たちに届けられました。個人主義から変わらなければいけない。

この震災をきっかけに、ボランティアを始める人やNPOを立ち上げる人、自分の住む地域に目向ける人たちが徐々に増え、人々の意識は少しずつ変わり始めました。

### 現在

### 昔



#### ▶「協働」とは…

市民、地域、行政などがそれぞれの特質や資源(人・物・金だけでなく地域の歴史文化など)を活かし対等な立場に立って、協力し合い共通する地域や社会的課題の解決に当たることです。

### 協働のイメージ

#### Question

専門家に聞く  
「市民協働」って  
どう考えたらいいの？

#### 市民協働とは 「助け合うこと」

現代は、地域課題がますます拡大し、多様化しています。

この多様化する地域課題に対し、それを担う行政職員は人員削減の波の中で減少、地縁的組織も担い手が不足、志縁的組織で活動する人もなかなか増えないというような状況が見られています。

課題は増えるけれど、解決に当たる人口は相対的に減っているという状況で、それは助け合わないと乗り越えていきません。率直に言うと、その「助け合い」こそが「市民協働」という訳なんです。

#### 連携して 「脂肪(課題)」を燃やす

現状は、体に例えるとだんだん体脂肪が増えていって、筋肉の部分が減っていくような感じですね。この「脂肪(地域課題)」をみんながどうやって燃やしていくかが大切なんです。つまり、筋肉(志



### 市民協働は手段 目標はまちづくり

「個人主義」化が進んだ今の時代は、たくさんの地域課題が存在しています。

しかし、多様化し、細分化された地域課題を、行政の力だけですべてカバーするのは難しいというのが現状です。一方で、課題を自分たちの力で解決しようとするボランティアやNPOなどの志縁的組織、そして地域の動きなどが生まれていることも確かです。

そこで出てくるのが「市民協働」という考え方です。

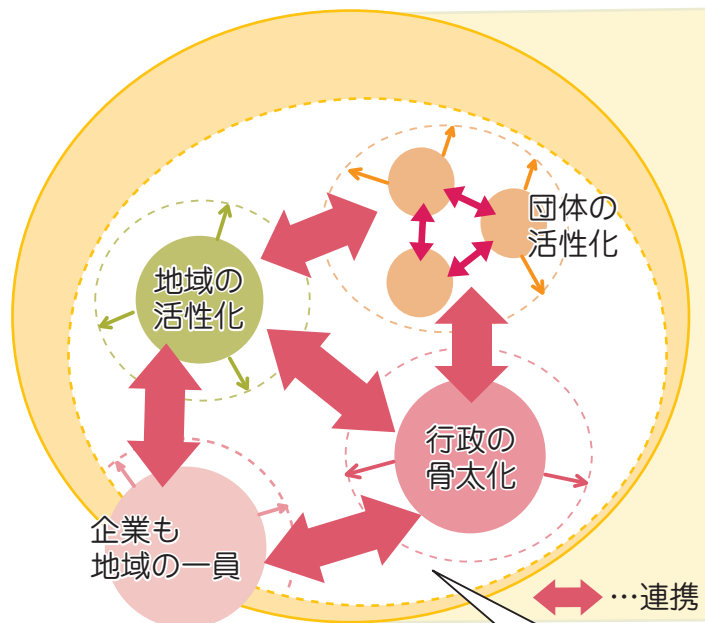
「市民協働」とは、行政だけがすべてを担うのではなく、課題の解決に取り組むことができる市民や団体も一緒に協力して「まちをつくりたいこうよ」という「まちづくり」のための「手段」です。

### あなたも「協働」への一歩 踏み出してみませんか

今、鳥栖市に住む私たち。「こんなまちになつたらいいな」という「想い」を抱いている人もたくさんいることでしょう。

あなたが描く理想のまちは、あなた自身が意識を変え、「協働」の一步を踏み出すことで、ぐんと実現に近づくのかもしれない。

## 協働すると…



筋肉が活性化し、骨がしっかり強くなること、それらが連携して動くことで、脂肪が燃やされる!

### ▶ keyword キーワード

#### 「地縁的組織」とは…

住民が参加し、居住地域の課題に対する活動を行う組織で、自治会、婦人会、老人クラブ、子どもクラブ、PTAなどを主に指します。

#### 「志縁的組織」とは…

有志が参加し、特定のテーマに特化した活動を行う組織で、ボランティアグループ、市民活動団体、NPO法人などのさまざまな種類があります。

#### 地域を、団体を、そしてまちを構成する「人」…

地縁的組織や志縁的組織、行政に企業…。まちには、たくさんの団体がありますが、それを構成するのはもちろん「人」。まずは私たち1人1人が相手のことを考え、協力する意識を持つことが大切です。



加留部貴行 (かるべたかゆき) さん  
九州大学統合新領域学府特任准教授

行政は「骨太」に  
地域は「筋肉質」に

行政のスリム化、組織のスリム化という話がありますが、課題をスリム化するために行政は骨太でなければならぬ、そして志縁的組織や地縁的組織などの民間の活動は筋肉質でなければならぬということじゃないでしょうか。

縁的組織や地縁的組織) が動くことで脂肪を燃やすんです。スリム化するということは、骨(行政) や筋肉をスリム化するのではなく、地域の課題をスリム化することです。だから筋肉としての民間の活動がしっかりと動けるようにし、骨としての行政がしっかりあることが重要です。骨と筋肉というのは、両方がしっかりと動ける状態を作り、連携して初めて動けます。いけない脂肪が付きすぎてつぶれてしまいますから。

# STEP 3

## 動き出している人もいる

### 一歩を踏み出している人を紹介します

これまでは「地域課題」や「協働とは」について見てきましたが、すでにそれぞれのフィールドで「自分でできること」を始めている人もたくさんいます。

今回は、子どもたちを地域で育てることで、地域のつながりを取り戻そうとする取り組みについて紹介します。

ひとつは本鳥栖町の取り組みで、もうひとつは弥生が丘東区で行われている取り組みです。また、新しく動き始めた人たちに、活動への意気込みを伺いました。

ここに登場する皆さんからは「こんな社会にしたい、こんなまちにしたい」という大きな希望が伝わってきます。

### Interview 1

## 本鳥栖町の公民館開放

しのぶ まいぬの  
篠原政照さん

本鳥栖町区では現在、地域の子どもたちのために放課後や土曜日に公民館を開放しています。

この取り組みを始めたのは、同町区で区長を務める篠原政照さんです。

「地域に住む子どもからお年寄りまでが、自由に遊び、立ち寄れる場であることが公民館の存在意義」だと考える篠原さん。この公民館開放は、そんな思いから始まりました。

開放するようになってからは、公民館の裏に危険防止のためのフ



地域のお年寄りにルールを習いながら遊びます



篠原政照さん

エンスを設置するなど、子どもたちが過ごしやすい環境を整えています。今では、多くの子どもたちが立ち寄るようになり、外や館内で遊んだりしながら思い思いの時間を過ごしています。

老人クラブのメンバーが講師役になって、室内ペタンクや卓球などのルールを教えながら、子どもたちと一緒に過ごすこともありま

す。また、公民館を拠点に、もちつき大会やお花見など、世代を超えて地域住民が交流できる行事も開いています。

### 原点に戻って昔のような地域のつながりを

篠原さんが小さかったころ、本鳥栖町は250世帯くらいの町で、町内みんなが知り合い同士という関係でした。

しかし、今ではマンションも多く建設され、現在、1000世帯を超えるほどの町に成長。知らな

### Introduction

## 始める、広がる、つながる

新しく活動を始めた人たちを紹介

### 人の心に寄り添う傾聴

傾聴ボランティア

傾聴とは、相手の伝えたいことをじっくり丁寧に聴くことです。私たち「傾聴ボランティア」は、市民を中心に集まったメンバー27人で、今年度発足しました。

活動内容としては、市内の特別養護老人ホームなどを訪れ、個室に入っている入居者に一対一で寄り添い、話を聴くことです。

今の時代は、家族間でもゆとりがないものです。多くの人が傾聴のことを知っていたら、社会はもっと明るくなるかもしれません。「相手の話を聴く人」がもっと増えてほしいなと思っています。



写真左から緒方邦枝さん（加藤田町）  
今村幸子さん（原町）  
工藤ゆかりさん（原古賀町）  
久保山多恵子さん（原町）  
淵上香保里さん（蔵上）





高田 淳さん

## Interview 2 弥生が丘東区・遊冒会

たかだ じゅん  
高田 淳さん

弥生が丘東区には、30歳代から40歳代の若い父親が中心となつて、地域の青少年健全育成を行う「遊冒会（あそぼうかい）」という団体があります。

「今、子どもたちは私を見掛けるのと、あいさつをしに寄ってくる。それまで無口だったのに、公民館に来るようになって、話をするようになった子どももいる。原点に戻って、昔のような地域のつながりを作ってあげることが大切だと思ふんです。町の人が見守る環境でこそ、子どもは健全に育つ。そのためにも、まずは大人が変わらなければいけないと感じています」



子どもたち自身が楽しんで取り組みます

遊冒会を中心となつて立ち上げたのが、高田淳さんです。

高田さん一家は3年前に鳥栖市に引っ越してきました。子ども会の役員を務めたことで「男性や地域も子どもを育て、見守ることがもっと必要なんじゃないか」と感じたそうです。

一昨年の夏は、地域の子もたちにも呼び掛けて町内の東公園でキャンプを実施。キャンプのほかにも地域のイベントへ遊冒会として参加し、子どもたちが近所を回って商品を集め、子どもたち自身も値札を付けて販売するバザーなども行っています。

活動の中で高学年の子もたちにリーダー役を担ってもらい「年上の子が年下の子どもの面倒を見て、育てる」という、子どもたちが自ら教え、育つ環境づくりも進めています。

昨夏のキャンプには、一昨年参加した子どもたちが中学生となつて手伝いにきてくれました。

### 地域からいじめや 非行をなくしたい

自身も4人の子どもの持つ父親であり「子どもたちが笑顔であいさつをするようになったり、いきいきと楽しそうにしたりしている姿を見るのが一番うれしい」と語る高田さん。

「地域で子どもを育成するという活動は、継続が大切。地域のコミュニケーションを密接にして、地域からいじめや非行を無くしたいと思っています。これからも、子どもたちの『やりたい』という自主性を大切にしながら、幅広く活動していきたいですね」



地域の仲間と一緒に過ごすキャンプは最高の思い出に

### 社会起業を広める若い力 社会起業支援委員会2009

私たちは、佐賀県そして鳥栖市を中心に「社会起業家」について、若者をはじめ多くの皆さんに知ってもらうための活動を始めています。12月20日には、佐賀大学で「社会起業支援サミット2009 in 佐賀」を開きました。

「社会起業家」とは、行政などでは手の回らない社会的課題を、ビジネスの手法を用いて解決しようとする人たちを指します。事業型のNPOもその1つです。

現在は学生が主体でやっていますが、それぞれが「ボランティアを仕事として続けたい」や「自分の住む地域の良さをもっと知りたい」などの思いから始めました。

いずれはこの鳥栖で、若い世代を中心に、社会起業をやっている人たちとを考えています。



社会起業支援委員会 2009 メンバー  
写真左から吉松由希さん（下野町）  
岩崎佑紀さん（大正町）

# STEP 4

## 市民活動活性化のための支援

### 市民活動支援補助事業を実施しました

市では今年度から「市民活動支援補助事業」を始めました。

この取り組みは、公益的な市民活動を行う団体を対象に、補助金の形で支援を行うことで、活動の多様化や活性化を促すことを目的としています。

補助金の種類は、①団体の立ち上げなどを支援する「立ち上がり支援」、②1年以上の実績を持つ団体の活動を支援する「活性化支援」、③他団体との協働事業を支援する「協働事業支援」の3種類です。

今年度の募集では、以下の8団体を交付団体として決定しました。ここでは、交付を受けた団体の活動を紹介します。

#### Pick up!

### マジックを通じた地域貢献

#### ▶ わくわくマジック鳥栖(立ち上がり支援)

わくわくマジック鳥栖は、マジックボランティア講習会を通して結成されました。現在、市内の老人クラブや公民館などを訪問し、マジック披露による慰問活動を行っています。

メンバーは、春日市の「お宝文化人」寺田達雄さんによる指導のほか、自主練習も行い腕を磨いています。メンバーの1人、西城戸さんは「マジックを見て喜んでくれる人を見ると、こっちも元気をもらう」と話してくれました。



▼ マジックショーは大盛況

▲ ボランティア講習会から始まりました



#### Pick up!

### 人工林への侵入竹の除去と竹林保全

#### ▶ 九千部クラブ(立ち上がり支援)

九千部クラブでは、竹林や樹木と竹が混在している人工林に生えている孟宗竹の枝打ちや間伐を行うことで、森林本来の機能を取り戻し、山林や農地として活用できるようにしていくための取り組みを行っています。

今年度は9月6日と12月6日の2日間にわたり、長崎自動車道山浦パーキング横の林で竹の伐採を実施。活動に賛同してくれるボランティアも参加し、共に汗を流しました。



▲ 伐採した竹は竹炭化して有効活用

和気あいあいと昼食も▶



団体名	補助の種類	事業概要
♥ NPO ワーク&ライフサポートセンター	立ち上がり支援	働く人を対象に相談室を設置し、心の健康相談を実施
♥ 健康生活ネットワーク	//	自然農法で野菜や花を育て、試食体験などを実施
♥ モナミクラブ	活性化支援	外国人がスムーズな生活を送るための支援活動を実施
♥ 鳥栖要約筆記サークル「美々の会」	//	難聴者への理解促進のための講演イベントを実施
♥ NPO法人 子どもと文化のネットワークぼっぼ・わーど	//	「ぼっぼ・かふえ」記念号の発行とファミリーコンサートの開催
♥ NPO法人 しょうがい生活支援の会すみか	//	障害児とその家族のための夏休み支援事業を実施





とす市民活動センター「クロロバー」は、人々が集い、情報を交換し、活動できる「市民活動の拠点」として、平成19年4月にオープンしました。

ここでは、主にNPOやボランティア活動など市民活動のサポートやアドバイスをを行うほか、情報コーナーや交流スペースなどを設置し、皆さんが気軽に利用できる場を提供しています。

常駐スタッフは現在3人。多くの人に利用してほしいと、土・日曜日、祝日も開館しています（開館時間は10時

## 「始めてみたい」と思ったら 「クロロバー」

「始めてみたい」と思ったら

STEP 5

あなたも始めてみませんか！



トスパレス(大正町)の2階です。お気軽にお越しください

18時15分)へ。  
詳しくはクロロバー(☎81・

「ちょっと『何かしたい』と思っただけでも、大丈夫です。ここは市民の皆さんのための場所。皆さんが来てくれることで、この活動の幅もぐっと広がります」とスタッフの皆さん。ぜひ一度行ってみませんか。

19時。休館日は毎週水曜日、年末年始ほか)。



写真左からスタッフの池上さん、鈴木さん、木村さん

### 個人レベルから始める「協働」を考える

#### 第8回男女共同参画フォーラム 自分らしく生きるために ～いま私たちにできること～

とす男女共同参画市民実行委員会では「自分らしく生きるために～いま私たちにできること～」を開催します。

とき●1月30日(土) 13時～16時  
ところ●若葉コミュニティセンター  
内容●基調講演、ワークショップ、各種活動

団体の情報コーナーほか  
講師●高見真智子さん  
(サイズ・コミュニケーションズ代表取締役)

参加費●無料  
定員●100人(当日先着順)

託児●無料。希望者は1月22日(金)までに市民協働推進課へ



高見真智子さん

### 「協働」をもっと知りたいあなたに

「協働」や「市民活動」に少しでも興味を持った人はぜひ参加してみませんか。一步を踏み出すためのヒントがきっとあるはずです。

■問い合わせ…市民協働推進課 (☎85-3576)

### 活動団体の「声」を聞いてみませんか 市民活動支援補助事業 実績報告会

8ページで紹介した、補助金交付団体が行った活動の内容などを、広く市民の皆さんにお知らせする「実績報告会」を開きます。

報告会に参加することで、現在の市の地域課題とその課題解決に向けた取り組みを知ることができます。

この機会に、実際に活動をしている人たちの生の「声」を聞いてみませんか。

とき●1月12日(火) 18時～  
ところ●とす市民活動センター